



シドモア桜の会 横浜 概要

敬称略

設立の経緯と歩み：

- 1986年、生出恵哉、内田四方蔵らが「シドモア桜の会」の前身となる「日本の桜を愛した女史の墓前に桜を植える会」を結成。渡邊はま子ら約90人の賛同者から寄付を集め顕彰碑を建立。
- 1987年、生出恵哉が発起人となりシドモア桜の会を設立。文芸懇話会、横浜ペンクラブが中心となり、山手十番館後援で活動を始める。1912年のワシントン桜植樹と同じ3月27日第一回シドモア桜の会を開催し、墓前で顕彰碑「日本の桜を愛した女性ここに眠る」の除幕式とその傍らに生出恵哉が命名した<シドモア桜>を植樹。これにより、「シドモア桜の会」が始まる。
- 1991年、ワシントンより里帰りの苗木が贈られ、外国人墓地内のシドモア家墓前に2本とアメリカ碑苑内に3本の計5本を植樹。現存は墓前1本とアメリカ碑苑内1本の計2本のみ。この<里帰りの桜>から接ぎ木したものが、のちに「シドモア桜」と呼ばれるようになった。
- 1995年、シドモア女史の著作『日本・人力車旅情』の翻訳者・恩地光夫夫人、恩地薫が代表となり、山手十番館内の山手資料館に事務局を設置。
- 2015年、梅本千晶がシドモア桜の会ニューヨーク設立、NY州 Eastchester で桜植樹、桜祭りを始める。
- 2020年9月梅本千晶が代表を引き継ぎ、会の名称を「シドモア桜の会」から「シドモア桜の会 横浜」に変更。

会の目的：

日米友好の象徴として知られるワシントンの桜は、シドモア女史が発案者で移植実現の影の立役者であったことを多くの人に知ってもらい後世に伝える。また、女史が日米親善に貢献した歴史と横浜との関わりを知り、横浜の屋外の文化遺産である墓地や「里帰りの桜」を守り、日米親善に繋がるような活動をする。

新体制前の活動：

- 無縁仏となり荒れていた山手外国人墓地のシドモア家の墓をボランティアで清掃。整備・維持の一助になるよう墓地に献金
- 毎年桜の咲く春に墓前祭を主催し、シドモア女史を偲び、会員間の交流をはかる
- 11月3日シドモア女史命日に墓参
- シドモア女史や桜植樹実現の歴史等の講演会やパネル展示会を不定期に企画、開催
- 1991年ワシントンから里帰りの桜を墓前に植樹
- 墓前の「里帰り桜」をボランティアで管理、養生を担う。里帰り桜の穂木を用いて、各地に「シドモア桜」を植樹し、シドモア女史の偉業を伝える（植樹場所については添付リスト参照）
- 日本さくらの会が招聘する米国桜の女王横浜表敬訪問時にシドモア家墓地を案内
- 日本さくらの会主催の日本の桜の女王選定の会に参加

現在の活動：

- これまでの活動に加え、シドモア女史と桜の歴史啓発の為、多くの人の目に触れる場所に「里帰り桜」のDNAを受け継ぐ「シドモア桜」を植樹する「植樹プロジェクト」の推進
- 「里帰り桜」から「シドモア桜」の苗を作る「苗木作成プロジェクト」、横浜市の小學生に苗木を作成してもらい、育ててもらう「苗木ワークショップ」、接ぎ木の技術者・指導者の養成の推進
- 講演会、外国人墓地ツアーなど、横浜の歴史やワシントンの桜の歴史を学ぶ機会の提供
- 横浜シドモア桜祭り2022の開催とガーデンネックレス2022の連携事業者としての参加
- SDGs への取り組み
 - 連絡先: シドモア桜の会 横浜事務局 (代表 梅本千晶)
 - 〒240-0012 横浜市保土ヶ谷区月見台 7-42

シドモア家墓前「里帰り桜」から穂木を採取した<シドモア桜>の植樹リスト

(*は池本三郎氏育成苗木植樹、**は小林植木さん育成苗木植樹)

1. *本牧小学校
2. *栄区上郷・森の家(2000年、4本)
3. *栄区长倉町(2000年12月、1本)
4. *本牧山頂公園 (2002年、3本)
5. *元町商店街、谷戸橋近く (1993年)
6. *逗子池子米軍キャンプ場
7. *日吉の丘公園 (2002年、3本)
8. *大倉山公園 (2017年3月27日、第33回全国都市緑化よこはまフェア、横浜市港北区の事業として)
9. *都立園芸高校 (2017年)
10. *都筑区川和駅前菜の花畑内(2本)
11. *緑区鴨居駅北側の鶴見川土手(1本)
12. *長野県、池田町
13. **山手の国務省日本語研修所 (2019年3月15日)
14. **米国海軍横須賀基地 (2019年4月22日)

🌸新体制後(2021年1月以降)のシドモア桜の植樹

- No.1 *横浜市新市庁舎前・大岡川 弁天橋(2021年3月26日)
- No.2 *伊勢山皇大神宮創建150周年記念植樹(2021年10月22日)
- No.3 *横浜山手外国人墓地・シドモア家墓地(2021年11月9日)
- No.4 *横浜山手外国人墓地・アメリカ碑苑内(2021年11月9日)
- No.5 *tvk ハウジングプラザ横浜 (2021年11月25日)
- No.6 *横浜インターナショナルスクール新校舎落成記念(2022年1月31日)
- No.7 *聖光学院 (2022年3月18日)
- No.8 *横浜市立横浜総合高校 (2022年3月18日)

「シドモア桜」の名前の由来について

シドモア桜の定義はワシントンから送られた墓前の「里帰り桜」から穂木を採った苗及びその成長した樹のみに使用する。元の里帰りした樹は、「里帰り桜」として区別している。

- 1987年第一回シドモア桜の会の墓前祭でシドモア女史の為、墓碑傍らに植樹した桜を「シドモア桜」と命名したのがはじまりだが、最初の木は里帰り桜ではない。後に盗難に遭い紛失。現存するのは二代目。
- 1991年(平成3年)、シドモアの功績を後世に遺そうと「外人墓地を愛する会」と「YMCA」の計らいでワシントン・ポトマック河畔から里帰りした桜が、外国人墓地に5本植樹された。シドモア家墓前に2本植樹され、後に「里帰り桜」と呼ばれた。3本は「アメリカ碑」苑内に植樹されたが、数本枯れて、現存するのはシドモア家墓前の1本と、アメリカ碑の1本の計2本のみ。この墓前の「里帰り桜」から、主に接ぎ木の手法を用いて苗木を育て、植樹した桜を、「シドモア桜」と呼ばれるようになった。
- 2011年にも日米桜交流100周年記念でアメリカより150本の桜が届けられ、シドモア桜として植樹されているところがある。(詳細、出所、本数等不明)

2012年日米桜交流100周年記念で送られた桜を「シドモア桜」と呼んで植樹しているリスト

1. 野毛山公園 (2012年)
2. 本郷台駅前広場 (2013年3月、日米桜交流100周年記念)
3. 栄区
4. 海老名市
5. 東日本大震災被災地
6. 富山県